

【シャープニングで気付いたこと】

- ・ ストーンを持つ右手はあまり脇を締めずにふわふわとさせた状態にし、力を入れ過ぎないようにする。ただし、スケーラーを持つ左手の脇は締めてしっかり安定させるようにする。

力を入れ過ぎるとスケーラーの刃の減っていくスピードが早くなってしまう原因になる。

指先に伝わる感覚が分かりにくくなる。

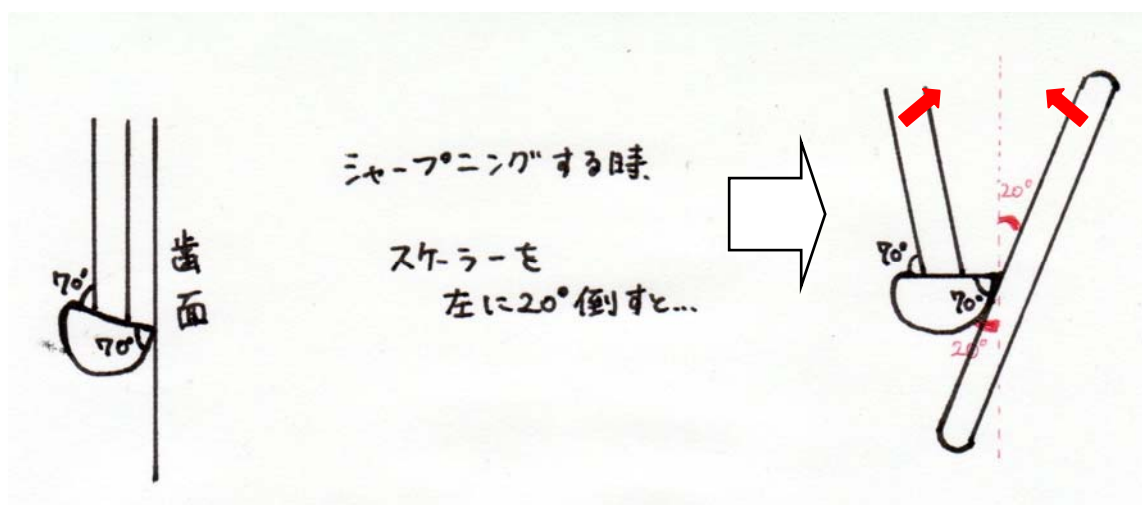
長時間作業すると手が疲れやすくなる。

- ・ ストーンはヒール側に回し込んだときにストーンと第一シャンクは結果的にくっつく形になる。だけど、シャープニングを行うときには第一シャンクの全体を研ぐのではなく、ヒールだけを研ぐようにする。

このように研いでいるとヒールだけが細くなってしまう。

刃が細くなってくるとヒールのところで刃が折れてしまう原因になる。

- ・ シャープニングを行う最初の時に角度表で角度をしっかりと確かめてからシャープニングを行っていたけれど、どこかで角度を誤ったままの状態で行っていた。私の場合、下図の赤の矢印のようにストーンまたはスケーラーのどちらかが起きた状態のままシャープニングを行っていたので刃の内角の角度がかなり大きく(約 90°)になってしまっていた。その為、テストングの際にはいくら第一シャンクをテストスティックと平行にしても切れ味が伝わってこず、第一シャンクをテストスティック側にかなり倒したところで切れ味がかなり伝わってきた。



《上の図の補足》効率よく歯石除去を行うには、歯面と刃のなす角度を適正角度（45～90°）で操作するのがもっともよく、もっともよいのは70° 前後といわれている。

第一シャンクを歯軸と平行にすれば刃と歯面のなす角度が70°になり、効率よく操作ができる。

引用した本『歯科予防処置』

【マネキン練習で気付いたこと】

- ・ スケーラーを持つ親指の力がまだまだ足りないので、スケーラーを安定した位置でずっと持つことが出来ない。

スケーラーのハンドル部分が納まる位置は人差し指の付け根の少し手前のところであり、長時間操作を行ってそこからスケーラーの位置が変わるのは親指の力がないからである。

親指の力の強化のために、指の輪のトレーニングを行う。

親指と人差し指でスケーラーを挟むように持つ指を作る。

- ・ スケーラーを引くときに力を入れて、戻すときには力を入れない。

スケーラーは引く操作のときに歯石をとるので、それ以外の操作で無駄な力を使わないようにする。

- ・ スケーラーを持つ手の向きに気を付けるようにする。

スケーラーを持つ手の向きが誤っていることによって、モーションも外に外に流れていくような誤った動きがでてしまっている。それに伴い第一シャンクが歯軸と平行でないままスケーラーが動いてしまっている。

——> 手の向きを正すこと、まっすぐにスケーラーを引くこと、第一シャンクを歯軸と平行にすること、が大事になってくる。

手の甲はコインが乗るような感じにする。

誤っている手元



正しい手元



【考察・感想】

・筆記試験で自分ができなかったところ

《スケーラーのハンドル》

太さ・・・一般的に太めのハンドルが持ちやすく、最近の製品はハンドルが太くなっている。

材質・・・金属、プラスチック、シリコンなどがある。材質によって、持ちやすさやカッティングエッジが根面に当たる触感に差を生じる。発する音も違ってくる。

金属はシャープ、プラスチックやシリコンは軟らかい感触と音がする。

重さ・・・軽めのほうがカッティングエッジに触感が指先に伝わりやすく、最近の製品の特徴になっている。

《シャープニング時のスケーラーの正しい持ち方について》

掌握状把持法でスケーラーを持ち、**親指**でしっかり支え、**小指**できっちり止める。

《テストング時のスケーラーの正しい持ち方について》

モディファイドペンングラスプ法でスケーラーを持つ。**親指**と**人差し指**で挟むように持ち、**中指**もスケーラーの上に乗せて支える。**小指**は離さない、立てないようにし**薬指**の内側に巻き込むようにする。

初めの講義の中での上間先生のお話を聞いて、私は手塚治虫さんという人は知っていましたが、どのような性格でどういう思いで漫画を描いているのかということまでは全く知らなかったなので、その人のことを知るととても良い機会になりました。手塚治虫さんがベッドの上で横になっている最期の最期まで漫画を描き続けたという話には本当にびっくりしてただただ尊敬するだけでした。それだけ、漫画を描くということが大好きだったんだなと思いました。

私も手塚治虫さん程まで好きになれていないと思いますが、歯科衛生士の仕事が大好きです。私には歯科衛生士の仕事しか考えられないので、昨年何も仕事ができなくなってしまったとき、好きでなった歯科衛生士の仕事を諦めないといけないのかなという思いが頭の中をよぎってしまったときは本当に辛かったです。今も思うことですが誰が何と言おうと私は生まれ変わってもやっぱり同じ歯科衛生士の仕事をしたいなと思います。

今回、筆記試験・実技試験を受けて筆記試験では自分の勉強不足を思い知らされました。今まで行ってきた試験の中での同じ問題は解けても、新しい形で出された問題は解けなかったりしたので、もっともっと本を読んで知識を付けていかないといけないなと感じました。実技でも自分が今何ができていないのかということを明確に知ることが出来るとても良い機会になりました。この点を踏まえて今回できなかったところはいつかできるように日々のトレーニングを頑張っていきたいです。

今回もたくさんのご指導をいただき本当にありがとうございました。本当にたくさんのご指導を学ばせていただきました。次回の Jokaan スクールは間近に迫っていますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。